

おすすめ  
資料

07



『弦の巧 II』  
小森谷 巧  
T-toc Records / XQDN1048  
青||29082||1

先生の選んだ  
1枚



小さな頃から親しんだ旋律を慈しむように弾く

私がお勧めする資料は「弦の巧II」というCDです。

選曲については、自分が小さい頃から耳にしていた曲、当時レコードなどで聴いていたけれど、最近演奏されなくなってきている曲と、自分の好きな曲を併せて14曲選曲しました。その内5曲はクライスラーの曲です。選曲の特徴は、3分〜4分位の曲で、皆さんが聴いて「これ知っている。でも曲名が分からない」とか「昔は聴いたけれども、最近では聴かなくなったな」というものを集めました。

収録曲の中では、ドヴォルザーク作曲の「カヴァティーナ」という曲が特に気に入っています。「カヴァティーナ」

は特に曲の形式がなく、ただメロディーが繰り返される単純な曲なのですが、自分の中の昔の思い出、家族との思い出や旅愁をイメージさせる曲です。演奏してみると、ヴァイオリンに一番向いている音域で、私の奏でるヴァイオリンの音色が活かせる、とても大好きな曲なのです。この曲は、私のヴァイオリンの師匠であるヨセフ・スーク先生※がよく弾いていた曲です。最近、弾く人が少なくなりましたので、自分が紹介したいという気持ちで選曲しました。

本来、演奏はホールなどに足を運んで、生で聴いて

いただくのが一番いいのですが、このCDは「身近に感じてもらえる演奏」を意識して制作しました。身近に感じられる部分は、雑音（弓を返したときに発生するこすれる音）や演奏しているときの呼吸音をそのまま残しています。ホールやスタジオ録音では消されてしまいう音をわざと残すことで、身近で演奏しているような臨場感が伝わると思っています。ぜひ、良質なヘッドホンやイヤホンで聴いていただきたい一枚です。

※：Josef Suk (1929-2011)：チェコ出身のヴァイオリン奏者。チェコの作曲家ドヴォルザークの曾孫。同姓同名の作曲家ヨセフ・スークは祖父。ヴァイオリン奏者としてだけでなくヴィオラ奏者としても活躍し、室内楽の演奏活動を盛んに行っていた。

演奏に使用した楽譜

Antonin Dvořák --- Supraphon 版

Fritz Kreisler --- Schott 版



小森谷巧先生